

第 2 章 限界事項

2 - 1 重量

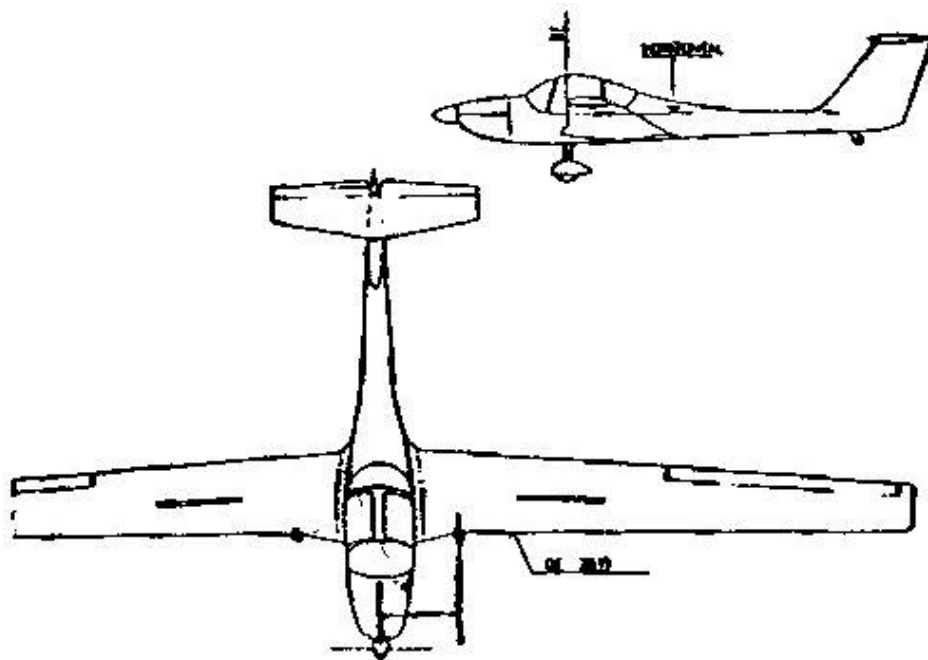
最大重量	850 kg
Non-lifting parts の最大重量	670 kg
最大翼面荷重	44.7 kg/m ²

2 - 2 許容重心位置範囲

重心位置	前方限界	271 mm	24% M A C
	後方限界	427 mm	38% M A C

基準面 操縦席ドアフレームが水平の時、胴体中心線より 1.3 mの主翼前縁

空力的平均翼弦 (M A C) 1.1247 m



2 - 3 積載量

搭乗者重量限界 (1 名) (装着するパラシュートを含む)	最小	70 kg
	最大	110 kg
搭乗者重量限界 (2 名) (装着するパラシュートを含む)	最大	220 kg
	(各席最大	110 kg)

(次頁に続く)

搭乗者に対する重量限界は上記の通りであるが、なお最大離陸重量 850 kg を超過してはならない。
もし超過する場合、燃料重量及び手荷物を適宜減らすこと。

最大燃料重量 72 kg = 100 Litter

手荷物最大重量 20 kg (酸素ボトルを含む。)

注意 搭乗者(装着するパラシュートを含む。)の重量が70 kg未満の場合、バラスト(トリム・ウエイト)を座席に固定し少なくとも70 kgに増やさなければならない。

ラップベルトにより取付ることができるトリムウエイトは本機の製造会社より取り寄せることができる。

もしトリムウエイト固定装置を床に取付るのであれば、体重 55.0 kg から 69.9 kg までの操縦者用のトリムウエイトを取り付けることができる。
(トリムウエイトの重心位置：基準面前方 0.74 m)

飛行時の重心位置の計算方法については6-8を参照のこと。

空虚重量時の重心位置については、別添 1 を参照のこと。

2 - 4 離着陸横風限界 20 km/h (11 kts)

2 - 5 対気速度限界

超過禁止速度(静穏時) V_{NE} 240 km/h

各高度における超過禁止速度は下記の表による。

高 度	V_{NE} (IAS)
0-2,000m (0-6,500ft)	240 km/h(130 kts)
3,000m (10,000ft)	225 km/h(122 kts)
4,000m (13,000ft)	214 km/h(116 kts)
5,000m (16,000ft)	203 km/h(110 kts)
6,000m (20,000ft)	192 km/h(104 kts)

悪気流速度 V_{RA} 170 km/h

(次頁に続く)

運動速度 V_A 170 km/h

エアブレーキ操作最大速度 V_{BS} 240 km/h

上記の速度は、全て指示対気速度 (V_{IAS}) である。

較正対気速度 (V_{CAS}) は、計器指示速度に位置誤差を修正したものである。

計器指示対気速度較正表

V_{IAS} - 計器指示対気速度

V_{CAS} - 較正対気速度

ピトー管の位置 : 垂直安定板上部に位置する静圧管

V_{IAS}		V_{CAS}	
km/h	kts	km/h	kts
74	40	72	39
80	43	80	43
91	49	91	49
100	54	100	54
109	59	109	59
120	65	120	65
130	70	130	70
141	76	141	76
150	81	150	81
159	86	159	86
170	92	170	92
180	97	180	97
191	103	191	103
200	108	200	108
209	113	210	113
221	119	221	119
230	124	232	125
240	130	243	131

全ての速度範囲において指示対気速度と較正対気速度の関係は、よく対応するが、最高速度付近で多少の位置誤差を生じる。

悪気流とは、ウエイプローター、雷雨、つむじ風、または山の稜線を越えるとき等に予想される乱れた気流を言う。

設計運動速度 (V_A) とは、いっばいに操縦舵面を使用できる最大速度である。

(次頁に続く)

超過禁止速度（ V_{NE} ）（許容された最大速度）では、操縦舵面の使用を1/3に制限しなければならない。

指示対気速度に対する真対気速度は、高度が高くなるにつれて増加することを考慮しなければならない。このことは、強度に対しては何ら問題はないが、フラッターに対する危険は増大する。

経験的にピトー静圧システムは、着氷状態では感度が鈍る。

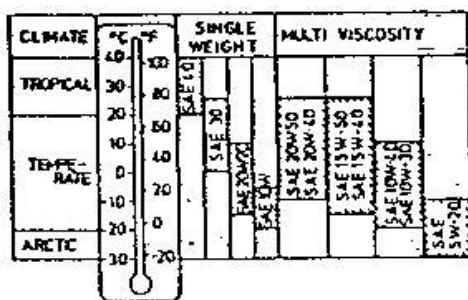
2 - 6 動力装置運転限界

2 - 6 - 1 発動機回転速度

最大許容回転速度（5分間）	3,400 rpm
連続最大回転速度	3,000 rpm
静止回転数	
プロペラ離陸位置	2,700 rpm ± 100rpm
プロペラ巡航位置	2,000 rpm ± 100rpm

2 - 6 - 2 潤滑

合成油、非合成油であるにもかかわらず、航空機用オイルを使用してはならない。内燃機関用の [S A E] オイルのみ使用すること。
オイルの等級については、下図によること。



容量	最小	1.75 Litter
	最大	3.5 Litter

注： オイルレベルゲージに示されるオイルレベルは、飛行中も地上でもほぼ等しい。レベルゲージの上限のマークまで満たされているのが丁度良い。

余分のオイルはベントラインより胴体下部へ排出される。